

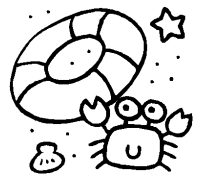
そらうがく

(No. 71)

R4. 7. 15 発行

現職研修委員会

総合的な学習部編集



本年度の研究の方針

生活・総合指導員 竜海中学校 酒井 智之

■研究主題■

『主体的・協働的に探究し、よりよく課題を解決する総合的な学習の授業』

■研究の重点■

- ・ 子供が切実感をもち、自分事となる課題設定。
- ・ 「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の四つの過程を繰り返す探究的な学習。
- ・ 多様な学習集団や学習形態の工夫。
- ・ 地域の「人・もの・こと」の積極的活用。
- ・ 評価規準の設定や評価方法の工夫。

■子供たちの声で課題をつなぐ授業を目指す■

総合的な学習の時間の目標を実現するには、「研究の重点」でもお示したように、探究的な学習のプロセスが重要になります。そして、学びの連続性を生み出すためにも、学習を展開するなかで、学習課題をいかに子供たちの声でつないでいくのかがポイントになります。子供たちが学びたいと感じる授業を展開したいというのが、私たち教師の願いではないでしょうか。そこで、**授業の終末で行う振り返りを大切にしたい**と思います。振り返りの場における発言を価値付けることで、子供たちの学習に対する意欲は一層高まります。友達への振り返りをもとにして問い返すことで、学びに対する視野が広がります。振り返りを効果的に活用し、教師の学ばせたいことに子供たちを付き合わせる授業ではなく、子供たちの学びたいことに寄り添った実践が展開されることを期待しています。

探究

総合的な学習部長 森 竜師

本校にはF組(校内フリースクール)があります。毎週金曜日の午後は「Fカフェ」がオープン。生徒は、教室を訪れた教職員とコミュニケーションを取りながら、コーヒーや紅茶をふるまいます。これは、生徒が社会性を身に付けるための取組の一つです。「Fカフェをもっと充実させたい。」

共通の思いを確認し合った生徒は、自分の興味のあることや、得意なことを生かしながら、それぞれ自分でできることは何かを考えました。

音楽が得意な生徒は、部屋を居心地のよい場所にするためにBGMを流そうと考え、音楽ソフトを利用して作曲に取り組みました。絵を描くことが得意な生徒は、マスコットキャラクターを生み出し、教室の入り口に掲げました。将来、食物調理の道を夢見ている生徒は、進んで調理場を担当しました。

「街で営業しているカフェでは、お客様を満足させるために、どんなサービスが提供されているのか。」生徒の追究は止まりません。F組の担任は、早速、街のカフェを訪問する校外学習を提案しました。そして、実際のカフェの様子や、そこで働く人のふる

まいを体感してきたF組の生徒たち。学んできた接客の言葉遣いやテーブルマナー、おもてなしの心得が、今のFカフェに生かされています。

さて、実生活における様々な課題は、「教科」の枠にはめられた教科書に、整然と整理されている知識だけでは解決することができません。総合的な学習の時間では、生徒は様々な事柄を知り、様々な人や考えに出会い、個別の事実が複雑に絡み合っている現実に直面します。そこでの「探究」を通してこそ、実生活の課題の解決に汎用的に活用できる、教科の枠組みを超えた「概念」を形成できるのです。本校のF組には、実生活の課題に主体的に向き合い、自らの可能性を発揮して、多様な他者と協働しながら課題を解決していこうとする、生徒の「探究」する姿があります。

総合的な学習の時間に係る基本的な考え方や具体例については、資料「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開・小学校編」が令和三年三月に、「中学校編」が令和四年二月に、文部科学省から公開されています。こうした資料を十分に活用しながら、それぞれの学校で、確かな「探究」が進められていくことを期待しています。

研究・研修報告

研修部

第一回の岡総研のご報告です。今回は三十五名の先生が対面で、九名の先生がオンラインで参加してくださいました。

座談会では小グループに別れて、単元構想や今後の授業の進め方などの悩みを伝え合い、活発な意見交換が行われました。

第二部の金指先生のご講話では、バンコク日本人学校でのご経験をお写真とともにお話してくださいました。コロナ禍におけるバンコク日本人学校の学び方について紹介してください、日本以外の学校の様子を知ることができました。



第三部の久野先生のご講話では、高等学校での総合的な探究の時間を中心に、学校現場での学びの先にある社会とのつながりをご教示いただきました。この会の開催にあたり、情宣していただいた主任の先生方に感謝します。

今回は、十月七日（金）を予定しています。お時間がございましたら、ぜひご参加ください。

学び舎の 総合耳寄り情報

本校では、まぼろしの米と呼ばれる「ミネアサヒ」を高学年が中心になって育て、地域の人々とのつながりやミネアサヒのよさなどを学習していきます。学区の米作り名人である高木田さん、小林さん、晁会を講師に迎え、代かきや田植えなど、全ての作業を一緒に行っています。子供たちは、下山の「ミネアサヒ」に誇りをもち、学習を進めています。



下山小 今泉 美貴子

本校では、岡崎に古くから伝わる伝統行事である「デンデンガツサリ」や田植えについて学習をしています。講師として、デンデンガツサリ保存会の方々に来ていただいています。デンデンガツサリについて気になることを質問としてまとめ、講師の方々に聞く時間を設けることで、子どもたちの分からないことを素直に聞くことができます。ように工夫しています。子どもたちの興味・関心に寄り添った授業を心がけています。



山中小 本多 竜斗

常南自然薯生産組合の野村さんを講師として招いし、校庭で自然薯栽培を行っています。この自然薯栽培は、四十年以上続いている本校の伝統行事です。種芋の植え付けから収穫までの世話を、野村さんご指導の下、六年生が中心となって活動しています。子どもたちは、十一月のとろろご飯の会を楽しみに、はりきっています。 常磐南小 佐藤 昌範



本校では、三年生が学校の伝統について調べています。一学期は、学校で伝統的に行われている茶摘みを行いました。二学期からは、茶摘みの歴史や、学校にあるビオトープの歴史について学んでいきます。学校の伝統と歴史を学んでいく中で、地域と地域とのつながりに気づき、地域への愛着を深めていくようにしていきます。 大門小 中村 太郎



地震などの災害時の対応について、二年生が学習しています。はじめに、東日本大震災が発生したときに、岩手で被災した教員の話をお聞きました。その後、災害が起こった後に、避難場所でのどんな問題が起こるかを調べたり、問題を解決するために自分たちができることをチームで話し合ったりして、切実感をもって学んでいます。 城北中 加藤 光一郎

